News Release



中国地域の経済動向

(2025年8月の指標を中心に)

~持ち直しの動きの中で一部弱含んでいる~

2025年10月23日

(本発表資料のお問合せ先)

総務企画部企画調査課長 中野 伸二

電話: 082-224-5633

メール: bzl-chugoku-chosa@meti.go.jp

~判断の推移~

	2025年9月(7月指標中心)	2025年10月(8月指標中心)
基調判断	持ち直しの動きの中で一部弱含んでいる	\Rightarrow
1. 生産動向	弱含みで推移	\Rightarrow
2. 個人消費	持ち直しの動きに足踏み感がみられる	\Rightarrow
3. 雇用動向	有効求人倍率は前月に比べ低下、新規求人数は 前年同月比で減少	\Rightarrow
4. 景況感	現状は前月に比べ低下、先行きは上昇	現状は前月に比べ上昇、先行きは低下
5. 貿易	輸出、輸入ともに前年同月比で減少	\Rightarrow
6. 建設動向	公共工事は前年同月比で増加、住宅建設は前年 同月比で減少	公共工事、住宅建設ともに前年同月比で減少
7. 企業倒産	件数は前年同月比で減少、負債総額は前年同月 比で増加	件数は前年同月比で増加、負債総額は前年同月 比で減少
8. 設備投資	2025年度計画は前年度を上回る見込み	\Rightarrow

1. 生産動向 ~弱含みで推移~

2025年8月の鉱工業生産指数(速報)は 98.2、前月比 3.8%の上昇となった(2020年=100、季節調整済)。出荷は上昇、在庫は上昇、在庫率は上昇となった。

生産を業種別にみると、自動車(乗用車・トラック・主要部品)、化学工業(除. 医薬品)、電子部品・デバイス工業などが上昇し、汎用・業務用機械工業、金属製品工業、パルプ・紙・紙加工品工業などが低下した。

【主要業種の動向】

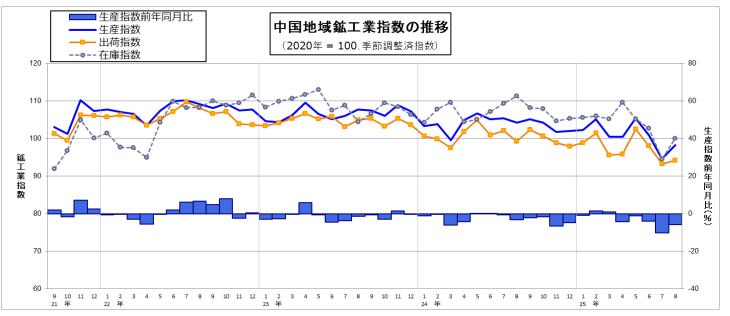
自動車(乗用車・トラック・主要部品)は、需要動向に応じた生産計画の見直しにより低下傾向。

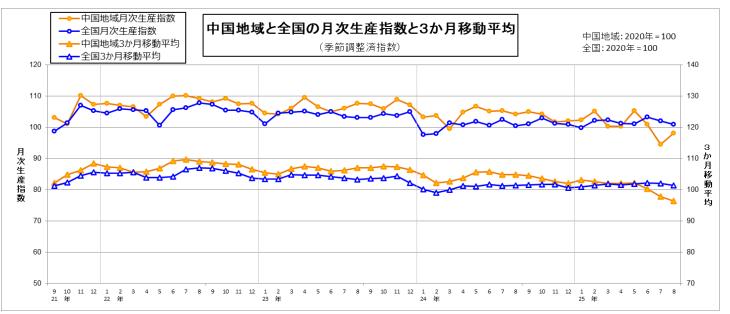
化学工業(除. 医薬品)は、定期修理明けの影響で 上昇したものの、低い水準で推移。

電子部品・デバイス工業は、生成AI向けが好調により高い水準で推移。

詳細データはこちらから







2. 個人消費 ~持ち直しの動きに足踏み感がみられる~

2025年8月の商業6業態の販売額は2,314億円で、前年同月比1.4%と10か月連続で前年を上回った。

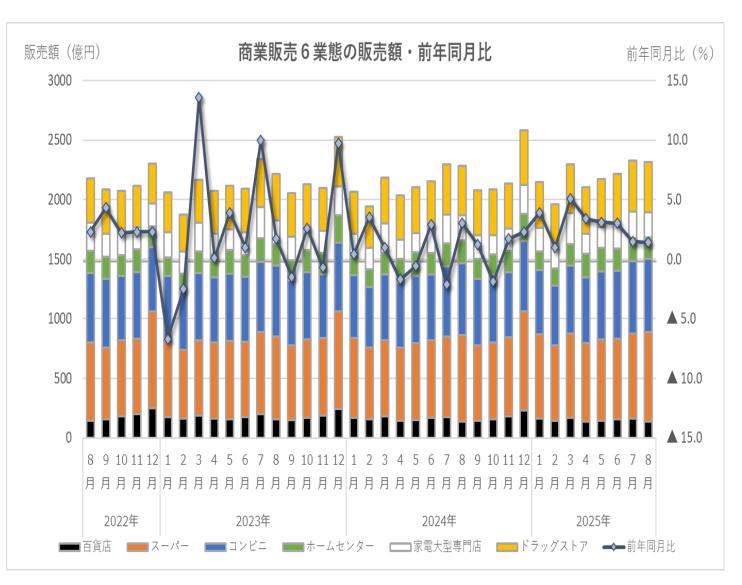
(百万円)	(全店舗、

		•			
	6業態に おける構成比	販売額	前年同月比		前月の 前年同月比
6業態		231,372	1.4	10か月連続プラス	1.5
百貨店	5.9%	13,686	0.0	24か月ぶりにプラス	▲ 6.3
スーパー	32.4%	75,010	3.4	10か月連続プラス	5.2
コンビニエンスストア	26.5%	61,272	1.6	6か月連続プラス	2.7
ホームセンター	7.9%	18,259	▲ 5.2	3か月ぶりにマイナス	0.3
家電大型専門店	9.1%	21,116	1.8	2か月ぶりにプラス	▲ 8.4
ドラッグストア	18.2%	42,029	0.8	44か月連続プラス	3.2

	店舗数	前年同月比
百貨店	12	0.0 %
スーパー	340	3.0 %
コンビニエンスストア	3,045	▲ 0.3 %
ホームセンター	403	0.0 %
家電大型専門店	177	0.6 %
ドラッグストア	1,066	2.9 %

その他のデータはこちらから





(1)百貨店の状況

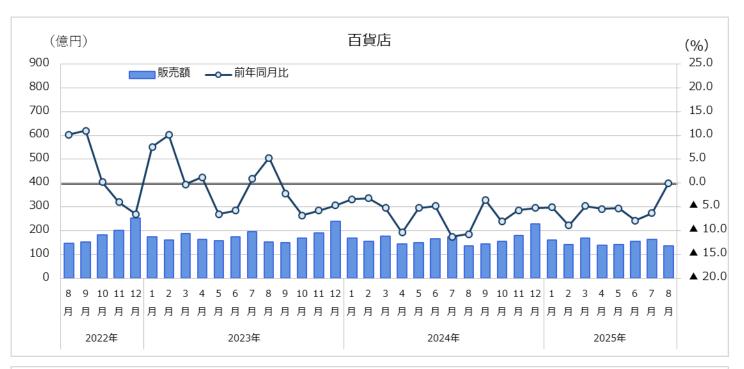
宝飾や時計などの高額品が好調だった。また、衣料品は夏物セール品、飲食料品はギフト解体セールが好調だった。一方、猛暑の影響で外出が控えられ、ハンドバッグ、靴が低調だったほか、秋物の衣料品の動きが鈍かった。

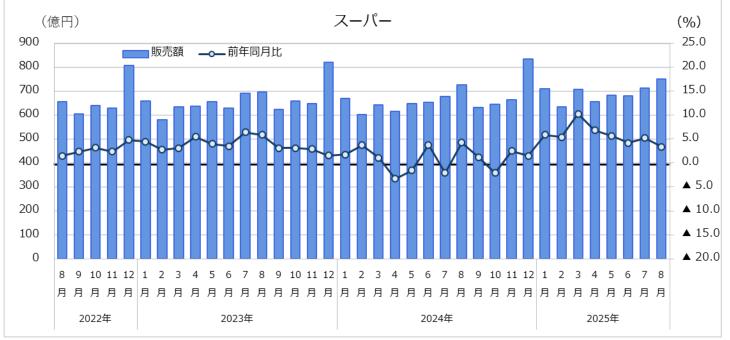
(2)スーパーの状況

伸び幅は鈍化しているものの、引き続き価格上昇により米の売上が増加した。また、水揚げが好調だったさんまによい動きがみられたほか、パーティーメニューの焼肉や寿司は少人数用の商品が好調だった。一方、前年の南海トラフ地震臨時情報の発表に伴う需要増の反動で、水や缶詰の売上が減少した。

詳細データはこちらから





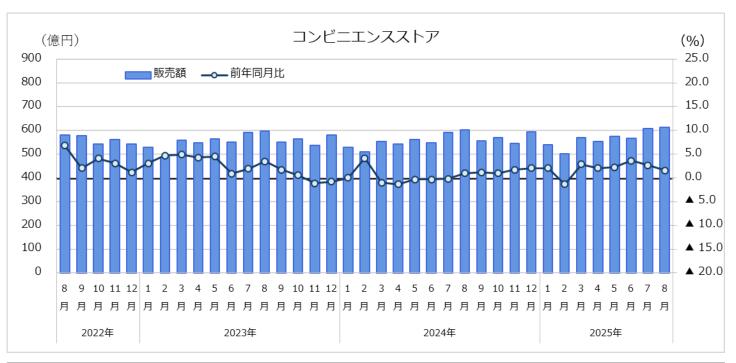


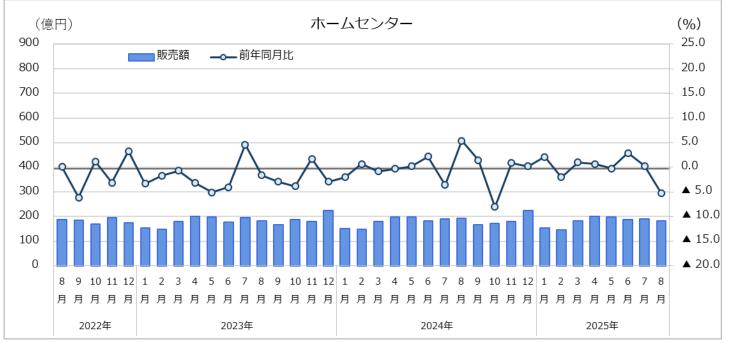
(3)コンビニエンスストアの状況

販売促進効果と割安感でおにぎりや揚げ物が好調だったほか、価格上昇で菓子の売上が増加した。一方、猛暑の影響で外出が控えられ、客数が減少したほか、飲料、アイスが低調だった。

(4)ホームセンターの状況

前年の南海トラフ地震臨時情報の発表に伴う需要増 の反動で、水、紙製品、電池、カセットコンロ、工 具・金物類が低調だった。また、需要が前倒しに なった冷房用品が低調だった。一方、秋植えの準備 で種や肥料が好調だった。



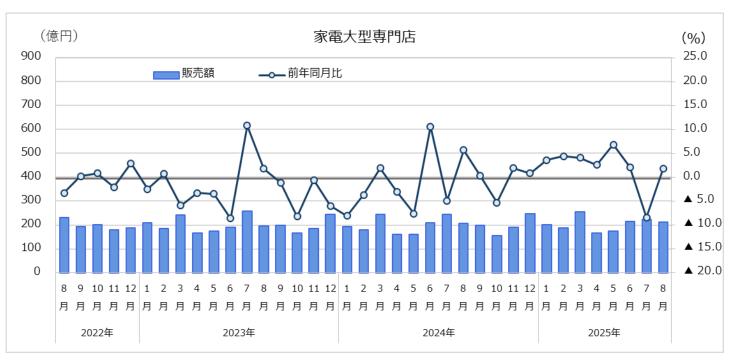


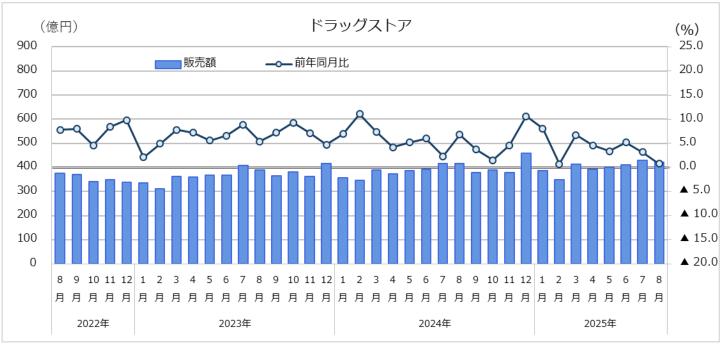
(5)家電大型専門店の状況

販売促進効果で携帯電話が好調だったほか、OSのサポート終了に伴う買い換え需要でパソコンが好調だった。一方、前年好調だったエアコンが伸び悩んだほか、冷蔵庫が低調だった。

(6)ドラッグストアの状況

伸び幅は鈍化しているものの、引き続き価格上昇により米の売上が増加した。また、スキンケア商品が好調だった一方、猛暑の影響で外出が控えられ、UVケア商品は低調だった。そのほか、前年の南海トラフ地震臨時情報の発表に伴う需要増の反動で、水、レトルト食品、紙製品の売上が減少した。





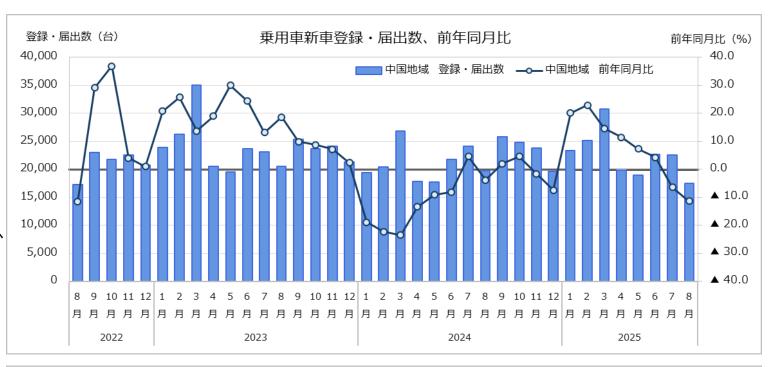
●乗用車新車登録・届出数

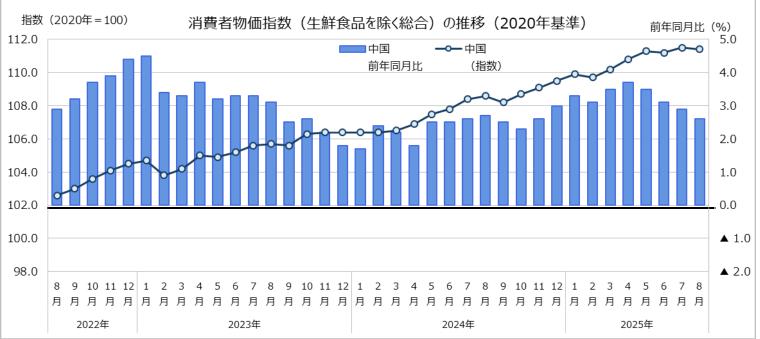
2025年8月の乗用車新車登録・届出数は、普通乗用車、小型乗用車、軽乗用車全てが前年同月を下回り、合計では前年同月比▲11.3%と2か月連続で前年を下回った。

(資料) 中国運輸局資料をもとに中国経済産業局作成

●消費者物価指数(中国地域)

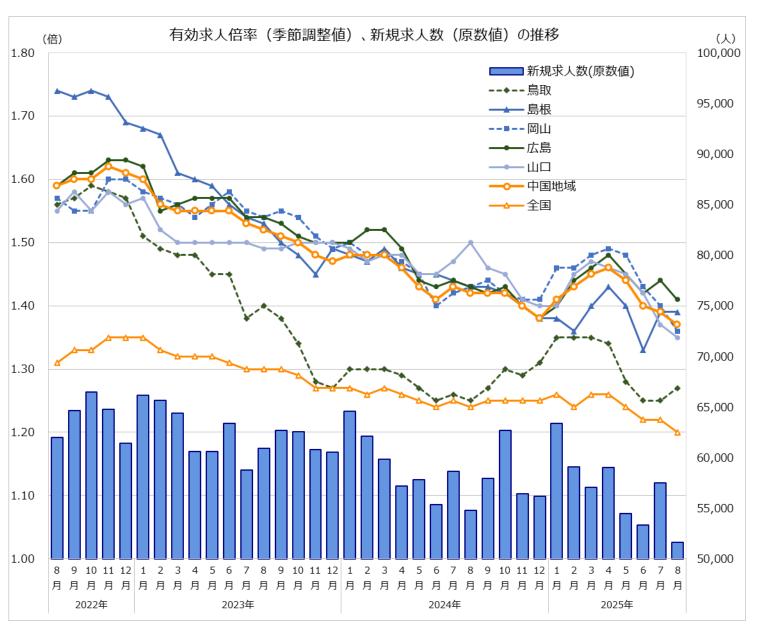
2025年8月の消費者物価指数(生鮮食品を除く総合指数)は前年同月比2.6%の上昇となった。





3. 雇用 ~有効求人倍率は前月に比べ低下、新規求人数は前年同月比で減少~

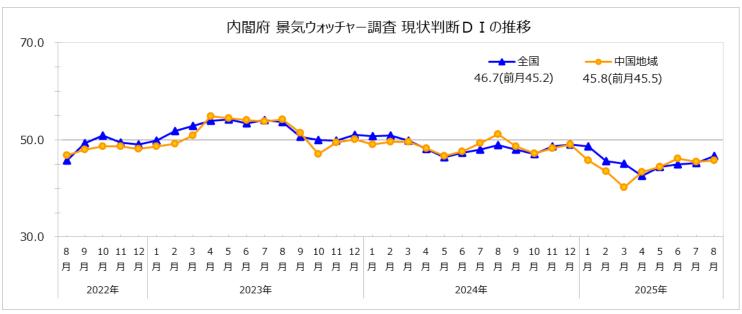
2025年8月の有効求人倍率は、1.37倍で前月の値を 0.02ポイント下回り、4か月連続の低下となった。 また、新規求人数(原数値)は、前年同月比▲5.8% で4か月連続の減少となった。

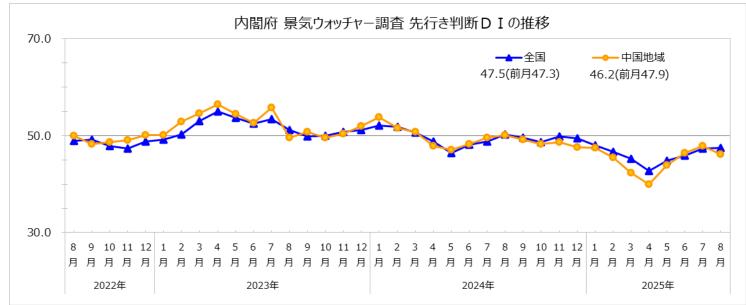


4. 景況感 ~現状は前月に比べ上昇、先行きは低下~

内閣府の景気ウォッチャー調査(令和7年8月調査結果)によると、中国地域の3か月前と比較しての景気の現状に対する判断 D I (方向性) は45.8となり、前月差0.3ポイントの上昇となった。

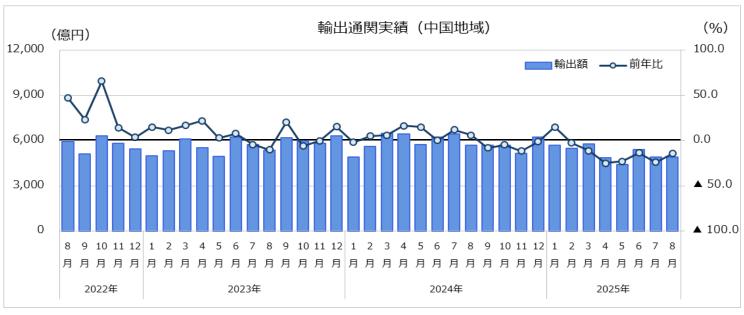
2~3か月先の景気の先行きに対する判断DIは 46.2となり、同1.7ポイントの低下となった。



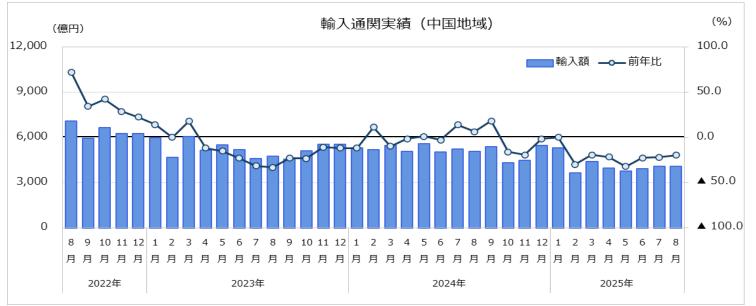


5. 貿易 ~輸出、輸入ともに前年同月比で減少~

2025年8月の輸出は、前年同月比▲14.0%と7か月連続で前年を下回った。品目別では、自動車、鉄鋼などが前年を下回った。地域別では、アジア、北米向けなどが前年を下回った。



2025年8月の輸入は、前年同月比▲19.5%と7か月連続で前年を下回った。品目別では、原油及び粗油、金属鉱及びくずなどが前年を下回った。

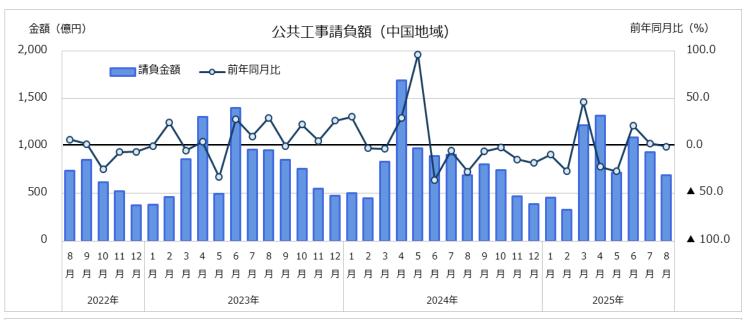


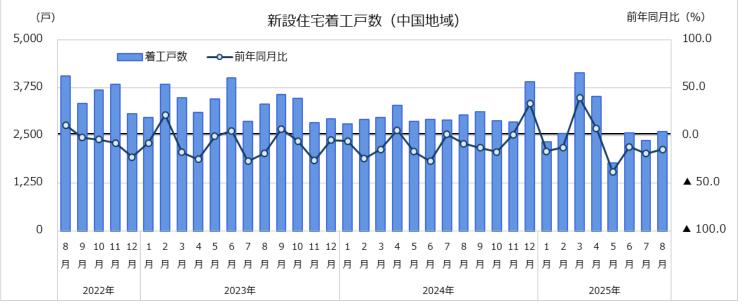
6. 建設動向 ~公共工事、住宅建設ともに前年同月比で減少~

2025年8月の中国地域の公共工事請負金額は、国、独立行政法人等、県で前年を下回ったものの、市町村、その他公共的団体で前年を上回った。合計では前年同月比▲0.7%と3か月ぶりに前年を下回った。

(資料) 西日本建設業保証(株)広島支店

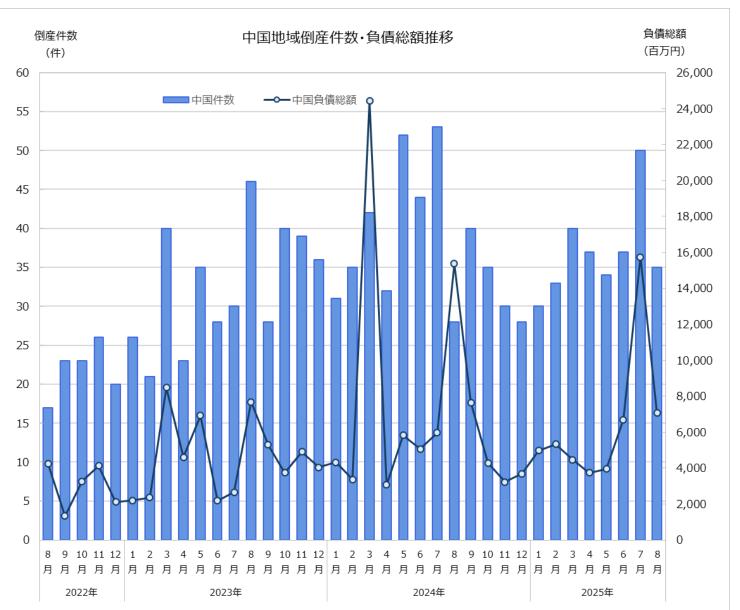
2025年8月の新設住宅着工戸数は、持家、貸家、 分譲住宅で前年を下回ったものの、給与住宅で前 年を上回った。合計では前年同月比▲14.3%と4 か月連続で前年を下回った。





7. 企業倒産 ~件数は前年同月比で増加、負債総額は前年同月比で減少~

2025年8月の企業倒産件数は35件で、前年同月比25.00%と4か月ぶりに前年を上回った。また、負債総額は70億7,000万円で、前年同月比 ▲53.98%と3か月ぶりに前年を下回った。業種別にみると、建設業が14件、サービス業他が7件、小売業が5件などとなった。原因別にみると、販売不振が33件、過小資本及びその他が1件となった。



8. 設備投資 ~2025年度計画は前年度を上回る見込み~

日本銀行広島支店の企業短期経済観測調査結果 (2025年9月)によると、2025年度の設備投資計画(含む土地投資額) は、製造業が前年度比 27.0%、非製造業が同▲6.2%となり、全産業では同9.7%となっている。

(注)横軸に初回調査(3月調査)から実績が確定する翌年6月調査までの6調査回を取り、毎年度の設備投資計画について、調査回毎の前年比の足取り(修正パターン)をグラフで示したもの。

